

株主のみなさまへ

第21期 平成20年12月1日～平成21年5月31日



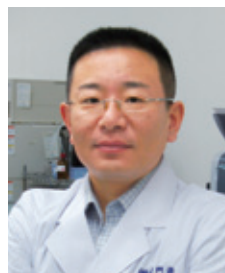
株主・投資家の皆様へ



株式会社 関門海
代表取締役会長兼社長
グループCEO
谷間 真



株式会社 トドクック
代表取締役社長COO
田中 正



株式会社 関門海
専務取締役
玄品食門研究所長
山元 正

中間期の業績に関してはどのように見えていますか？

谷間 まず全体としては、この経済環境の中で、売上高はM&Aなどにより64億(前年同期比9.3%増)と増収とすることはできました。また、利益につきましても計画には若干足りませんでしたが、なんとか経常利益4億を確保できたというのが率直な感想です。それだけ、景気の悪化は厳しいものだと思います。特に主力業態である「玄品ふぐ」において、宴会の急なキャンセルが相次ぎ、繁忙期の売上の落ち込みとしては過去に経験がないものではありません。そのような中で、全社的なコストダウンについては当初計画よりもスピード感を持って実行することができましたが、それよりも売上高の低下が大きかったという状態です。ただ景気の悪化を憂いていても仕方がありませんので、打つべき施策に関しては早急に行っております。下半期そして来期には必ず良い結果が出るものと思っております。

それでは、下半期の重点的な施策について教えてください。

谷間 まず、研究開発型外食事業について説明させていただきます。「玄品ふぐ」でまずやるべきことは、商品管理、サービスレベルの向上を再度徹底するとともに、「お客様との密接した関係」をテーマとして全社一丸となってお客様と向き合いながらの店舗運営を実践しています。例えば、これまではよく「玄品ふぐ」をご利用いただくお客様であっても、店舗ではお名前も何をしていない方も分からないという状況が多々見られておりましたが、現在は全ての店長がお客様とお話し、店長の名前を覚えていただき、お客様の名前も覚えることができるよう日々努力をしております。格安とはいえ、ふぐ料理という高級料理を扱う以上、お客様との距離感が普通のチェーン店であってはならないということを再確認しているところです。また、新メニューの投入も積極的に行っています。6月からは「ふぐしゃぶ新味」「てっちり赤味」というメニューを投入し、非常に好評を博しております。9月からは「ふぐ雑炊」をメインとしたランチ営業も開始し、ふぐ料理をより身近に感じて頂けるよう努力し、この冬の業績向上に必ず結びつけたいと思います。「その他の業態」については、それぞれのメニューの見直しなどによって、玄品グループの食材に関連する競争力を活用しながら、業態を時代の流れに合わせて行くことが肝要であると思っており、成果は徐々に出ております。

田中 総菜宅配事業については、上半期はとにかくコストダウンの実行を最優先し、その結果として第2四半期の黒字化を達成できましたので、トドクックへの事業統合は一定の成果があったものと思っています。しかしながら、その過程において、お客様にご迷惑を掛けることも多々あり、結果として売上高の低下が想定よりも大きくなってしまったことも否めません。下半期については、事業統合は完了したので、お客様に喜んでいただき、そしてお客様が増えていくことに特化していきたいと思います。そのためには、営業力の強化だけではなく、商品の見直し、新企画の投入が必要です。今後はグループの総力を結集して、時代の流れに合ったいい商品、いい企画をお客様に届けていきたいと思っています。

山元 私の方で推進していることでは、富士水産で行っているとらふぐ養殖の採算性の確保とぐろーばる農園での農業の立ち上げが下半期の重点施策です。特にとらふぐ養殖については、まず通常の養殖方法のコスト管理を追求した上でこれまで培ってきた養殖技術の事業化により、競争力のある生産体制の構築を行うことが責務だと思っています。

今後のM&Aや新規事業についてはどのようにお考えですか？

山元 技術面からの新規事業につきましては、厨房機器大手の福島工業株式会社との解凍機の共同開発などは発表いたしました。ただ、それだけではなく、将来大きく化けるかもしれないテーマの研究を常に模索しています。玄品グループは、先行き不透明な食の未来をより輝いたものとするために存在していると確信し、新たな技術の開発に邁進したいと思っています。

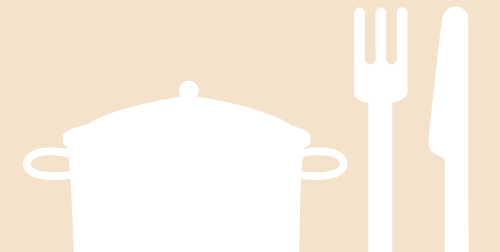
谷間 事業的には、まずM&Aに関しては、現在は原則的に考えていません。これまでに子会社化した会社との本当の意味での融合を済ませ、明確な成果を出してから次のM&Aを検討したいと思っています。また、新規事業については、未来に可能性があるものについては、これからも積極的に実行して行こうと思っており、様々な案件を現在も検討しています。大変厳しい経済環境の中ですが、従業員と一丸となって、様々な事業の中でお客様に喜んで頂くことで、これまで以上に玄品グループの存在意義を社会に示していきたいと思っております。株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い致します。



財務ハイライト



トピックス

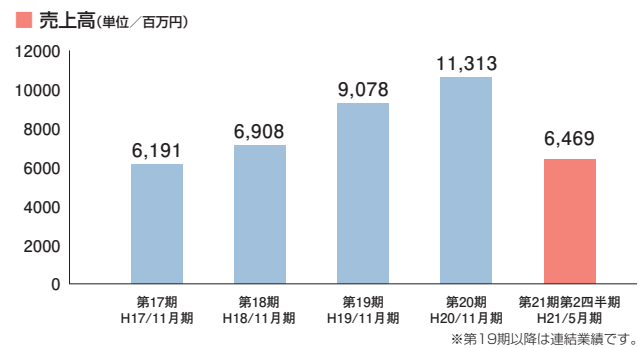


財務状況

当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は、6,469百万円（前年同期比9.3%増）と増収となりましたが、利益につきましては、経済環境の急激な悪化の影響もあり、営業利益436百万円（前年同期比37.1%減）、経常利益404百万円（前年同期比39.1%減）、四半期純利益は166百万円（前年同期比54.3%減）と増収減益となりました。

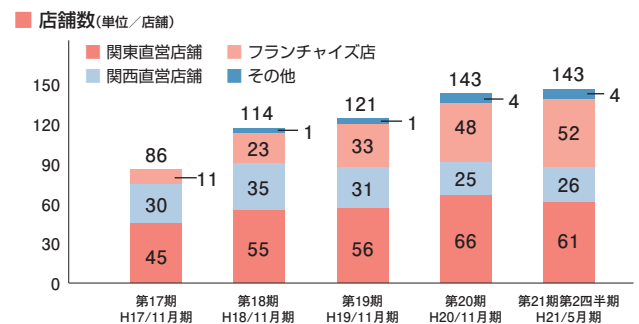
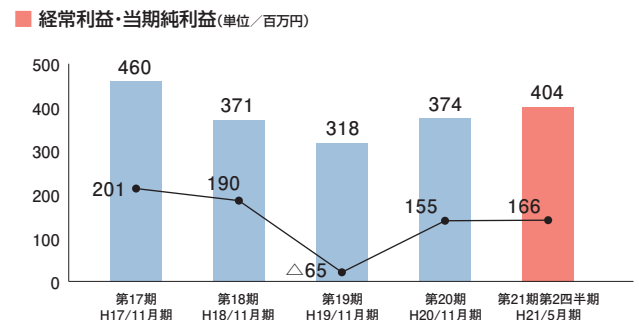
セグメント別では、研究開発型外食事業は、「玄品ふぐ」は、現在直営店舗64店舗、フランチャイズ店舗52店舗、計116店舗、「すし兵衛」「玄品以蟹茂」等のその他の外食店舗27店舗と合わせて143店舗を展開しております。業績面では、「すし兵衛」の貢献などにより、売上高は4,243百万円（前年同期比2.1%増）と増収となっていますが、営業利益は「玄品ふぐ」の店舗売上の低下により672百万円（前年同期比29.9%減）となりました。総菜宅配事業は、カネジとアクト・デリカの事業統合によるコストダウンを実施した結果、売上高は1,967百万円（前年同期比17.3%増）、営業損失は24百万円と損失発生を縮小させています。

その他の事業は、有限会社しまや酒店の子会社化により、売上高は



258百万円（前年同期比210.1%増）と大幅な増収となりましたが、営業利益は17百万円（前年同期比32.0%減）と減益となっております。

平成21年11月期の通期の業績につきましては、売上高11,300百万円、営業利益340百万円、経常利益265百万円、当期純利益85百万円を見込んでおります。



株式会社富士水産での自社養殖

- 「玄品ふぐ」にて、新メニュー「ふぐしゃぶ新味」と「てっちり赤味」を段階的に導入
- 沖縄において酒販事業を営む有限会社しまや酒店の株式の90%を譲渡

平成21年
6月



てっちり赤味

- 株式会社富士水産での自社養殖とらふぐの出荷を開始

平成21年
5月

- トドクックの営業所を統廃合することによりコストダウンを実施
- 農業生産法人株式会社ぐろーばる農園を設立

平成21年
2月



ぐろーばる農園



平成21年
1月

- トドクックレシピ版・ストア版カタログを創刊
わけあり食材の取扱開始



レシピ版

ストア版



平成20年
12月

- 株式会社カネジと株式会社アクト・デリカが合併し、「株式会社トドクック」に社名変更



トドクック

連結財務諸表



連結貸借対照表 (要約)

	当第2四半期 (H21.5.31現在)	前中間期 (H20.5.31現在)	前 期 (H20.11.30現在)
資産の部			
流動資産	4,069,696	3,695,384	4,431,086
現金及び預金	1,009,361	1,049,518	1,145,688
売掛金	502,134	393,342	552,458
商品及び製品※1	1,985,846	1,727,546	2,061,076
仕掛品※2	182,744	63,806	160,638
原材料及び貯蔵品	79,220	54,968	62,483
その他	335,920	414,789	466,807
貸倒引当金	△25,531	△8,587	△18,066
固定資産	4,521,351	3,673,934	4,706,493
有形固定資産※3	2,653,455	2,572,235	2,806,859
建物及び構築物(純額)	1,825,110	1,784,275	1,951,871
その他(純額)	828,344	787,959	854,988
無形固定資産	666,590	108,129	675,373
のれん	549,990	3,490	574,942
その他	116,600	104,639	100,430
投資その他の資産	1,201,305	993,569	1,224,259
差入保証金	919,188	819,360	1,009,682
その他	284,539	174,209	216,849
貸倒引当金	△2,422	—	△2,271
資産合計	8,591,048	7,369,318	9,137,579

(単位:千円)

	当第2四半期 (H21.5.31現在)	前中間期 (H20.5.31現在)	前 期 (H20.11.30現在)
負債の部			
流動負債	3,901,407	2,963,518	4,415,528
支払手形及び買掛金	376,497	293,925	491,752
短期借入金	1,180,000	300,000	1,450,384
1年以内返済予定の長期借入金	1,333,795	1,188,328	1,241,143
1年以内償還予定の社債	24,000	32,000	40,000
未払金	448,211	470,686	679,597
未払法人税等	285,260	335,802	194,038
賞与引当金	58,515	97,064	23,809
その他	195,128	245,711	294,803
固定負債	3,270,024	2,547,363	3,315,477
長期借入金	2,967,160	2,228,762	3,035,446
その他	302,864	318,601	280,031
負債合計	7,171,432	5,510,881	7,731,005
純資産の部			
株主資本	1,402,581	1,855,943	1,397,526
資本金	323,920	323,920	323,920
資産剰余金	432,916	432,916	432,916
利益剰余金	933,724	1,099,106	827,689
自己株式	△287,980	—	△187,000
評価・換算差額等	1,290	△1,125	—
新株予約権	15,744	3,619	9,047
純資産合計	1,419,615	1,858,437	1,406,574
負債・純資産合計	8,591,048	7,369,318	9,137,579

連結損益計算書 (要約)

(単位:千円)

	当第2四半期 (H20.12.1~H21.5.31)	前中間期 (H19.12.1~H20.5.31)
売上高	6,469,741	5,918,858
売上原価	2,599,112	2,018,721
売上総利益	3,870,629	3,900,136
販売費及び一般管理費	3,434,086	3,205,857
営業利益	436,542	694,279
営業外収益	20,137	16,302
営業外費用	51,983	45,784
経常利益	404,696	664,798
特別利益	2,448	85,979
特別損失	75,717	89,688
税金等調整前四半期純利益	331,427	661,088
法人税等	164,692	296,435
四半期純利益	166,734	364,653

※1 商品及び製品

1,985百万円
(前期末比75百万円の減少)

商品及び製品の大半は、「玄品ふぐ」で提供される超低温で保管されているとらふぐです。このとらふぐの在庫投資により、「玄品ふぐ」は、変動の激しいとらふぐ相場の中、安定した収益が確保されています。また、とらふぐ以外にも食材価格の変動が激しいものについては戦略的な在庫投資を実施し、グループ全体の競争力を向上させています。

※2 仕 掛 品

182百万円
(前期末比22百万円の増加)

仕掛品は、主に長崎県対馬市において自社養殖中のとらふぐです。現在、順調に生育しており出荷も開始しております。

※3 有形固定資産

2,653百万円
(前期末比153百万の減少)

新規出店を減速したことにより、有形固定資産は減少いたしました。今後は財務バランスを勘案しながら出店を行っていく方針です。

※4 有利子負債

5,504百万円
(前期末比262百万円の減少)

収益性の向上、在庫投資、新規出店投資の抑制により、有利子負債の圧縮に努めます。

事業別情報



とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」

「玄品ふぐ」は、TVコマーシャルなどにより認知度は向上しましたが、秋以降の景気悪化の影響で冬場の店舗売上高が低下し、夏場も低調に推移しています。

下半期は、「玄品ふぐ」の業績向上を最重要課題として、一人でも多くのお客様との良好な関係の再構築、新メニューの投入、ランチ・深夜営業の開始、グランドメニューの見直しなどの施策を早急に行い、もう一度、店舗売上の向上に全力で取り組んでいきます。

新メニューは、高級感もあり手軽に食べられる「ふぐしゃぶ新味」、ふぐの新たな食べ方を提案する「てっちり赤味」を投入し、ランチ・深夜営業に関しては、ふぐの美味しさを味わうのに最も適した「ふぐ雑炊」を中心に打ち出していこうと考えています。



てっちり赤味



ふぐしゃぶ新味



ふぐ雑炊

レシピと食材「トドクック」

「トドクック」は、事業統合を上半期で終え、第2四半期は黒字化することができました。また、わけあり商品も頻繁にメディアに取り上げられ、好調な立ち上がりです。

下半期は、レシピ版の商品の見直し、家計の節約をテーマとした時代に合った新企画の投入などの施策を実行し、低下傾向にある売上の向上を図っていきます。



富士水産とぐろーばる農園

玄品グループは、先行き不透明な食の未来をより輝けるものとするため、食材の生産への本格的な取り組みを開始しました。

富士水産では、長崎県対馬市という優れた環境の漁場でとらふぐ生産を行い、現在約20万匹のとらふぐを養殖しています。また、2月には、北海道の当別町において、ぐろーばる農園を設立し、約3ヘクタールの農地を購入し、じゃがいも、とうもろこし、米、アスパラガスなどの農産物80トンを生産する予定です。

● 富士水産



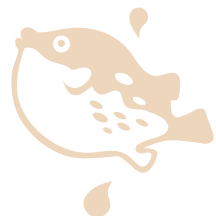
● ぐろーばる農園



株式の状況

株式の状況 平成21年5月31日現在

- 発行可能株式総数 200,000株
- 発行済株式の総数 62,700株
- 株主数 5,345名

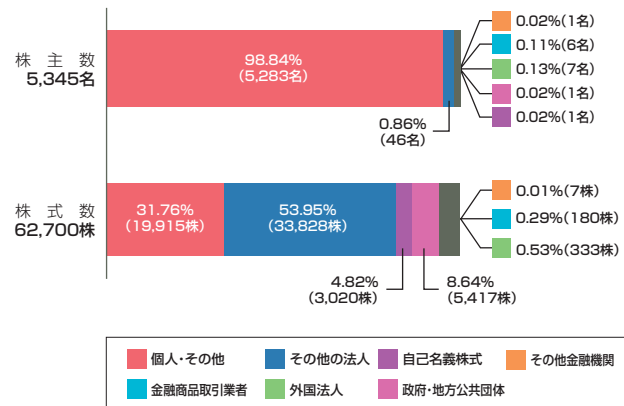


大株主

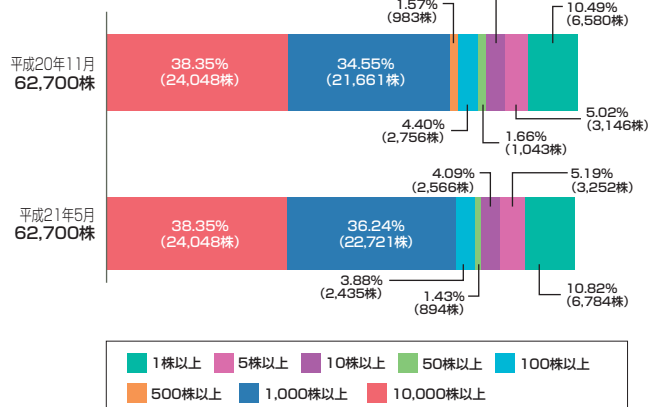
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合
株式会社ヤタガラスホールディングス	24,048	38.35%
財務大臣	5,417	8.64%
サッポロビール株式会社	5,102	8.14%
有限会社サンミート	4,480	7.15%
岡本洋一	1,921	3.06%
吉崎晃敏	1,721	2.74%
谷間真	1,060	1.69%
浅野省三	406	0.65%
八藤眞	400	0.64%
関門海福株会	359	0.57%

※当社は自己株式3,020株(所有割合4.82%)を保有しておりますが、大株主の状況には含めておりません。

所有者別株式分布状況



所有株式数別分布状況



株主優待制度



株主優待制度概要

- 1株以上3株未満 優待券×1枚(3,900円相当)
- 3株以上5株未満 優待券×2枚(7,800円相当)
- 5株以上 優待券×3枚(11,700円相当)

対象となる株主様

毎年5月31日、11月30日現在の株主名簿に記載された株主様

優待内容

1	とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」	秘玄匠味セット1人前ご優待
2	かに料理専門店「玄品以蟹茂」	ズワイ蟹鍋と炭火焼セット2人前ご優待もしくは、3,900円相当の割引
3	スペインバル「BAR DE G」	3,900円相当の割引
4	ダイニングカフェ「ARIA.C(アリアッチ)」	3,900円相当の割引
5	とらふぐ料理「ふぐ玄銀(くろかね)」	3,900円相当の割引
6	沖縄料理「伽楽可楽(カラカラ)」	3,900円相当の割引
7	回転寿司「すし兵衛(すしべえ)」	3,900円相当の割引
8	お取り寄せ玄品ふぐ	3,900円相当の割引
9	玄品ふぐひれ酒セット	オリジナルひれ酒セットと引き換え
10	レシピと食材「トドクック」	宅配トドクック5食セットと引き換え
11	富士水産	対馬の高級干物と引き換え

「株主優待券」のご送付時期

- 5月31日現在の株主名簿に記載された株主様に対しましては、8月中旬頃の発送予定となります。
- 11月30日現在の株主名簿に記載された株主様に対しましては、2月下旬頃の発送予定となります。

配当実施のお知らせ

当社グループは、新規出店、技術開発、M&A等に関わる投資により成長を継続させ、企業価値を高めてまいり所存ですが、同時に当社株式を長期保有していただいております株主の皆様への利益還元として、業績に応じて、積極的に配当を実施していくことを基本方針といたします。

配当の内容

中間配当につきましては、平成21年7月10日公表のとおり、1株当たり1,000円を実施いたします。期末配当につきましては1,000円を予定しており、年間配当は1株当たり2,000円となります。なお、配当金額につきましては、現段階での予測となっており、変更する可能性もございます。



株主メモ

決 算 期 毎年11月30日

基 準 日 毎年11月30日

中間配当基準日 毎年5月31日

株式の売買単位 1株

公告掲載方法 電子公告による
(<http://www.kanmonkai.co.jp>)
但し電子公告を行えない場合は、日本経済新聞に掲載する。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜1丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
TEL:0120-094-777

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

会社概要

株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.

創 業 昭和55年9月
創業者山口聖二が大阪府藤井寺市にてとらふぐ料理「ふぐ半」
(現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店

設 立 平成元年5月 株式会社さかな亭(現:株式会社関門海)を設立

所 在 地 ■本社所在地
〒550-0014 大阪市西区北堀江2丁目3番3号
TEL:06-6578-0029(代表) FAX:06-6578-0030
お問い合わせ info@kanmonkai.co.jp
URL <http://www.kanmonkai.co.jp>

■玄品食門研究所
〒580-0041 大阪府松原市三宅東1丁目8番7号

■東京本部
〒108-0071 東京都港区白金台5丁目4番7号
BARBIZON25 4F

資 本 金 3億2,392万円(平成21年5月31日現在)

役 員	代表取締役会長 兼 社長	谷間 真
	グ ル ー プ C E O	
専 務 取 締 役	山元 正	
取 締 役	田中 正	
取 締 役	大村美智也	
取 締 役	本多 正嗣	
取 締 役	岩本 昌志	
取 締 役	原 真理	
取 締 役	土坂 祐平	
社 外 取 締 役	川合アユム	
常 勤 監 査 役	松本 滋	
社 外 監 査 役	浅野 省三	
社 外 監 査 役	玉置 和則	

従業員数 179名(平成21年5月31日現在)

事業内容 ■「美味で健康的な本物のおいしさ」を追求する食材関連技術の
開発

■とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の直営及びフランチャイズ
による店舗展開

■食材関連技術を活用した新規開発事業による店舗展開

